

2015/2016 年度 第 2 回 全国委員会 議事要旨

日時: 2015 年 11 月 29 日(日) 10:30-16:30

会場: 筑波大学東京キャンパス

出席者(敬称略)

呑海[東京], 加藤[千葉], 大田原[千葉], 赤澤[京都], 池田[東京], 鈴木[埼玉], 西脇[東京], 和知[点在], 上村[東京](記録)(以上常任委員),
今野(代理)[北海道], 井ノ口[群馬], 山口[東京], 中島[愛知], 長坂[京都], 小村[大阪], 加川(代理)[兵庫], 辻(代理)[広島], 西村(代理)[福岡](以上全国委員),
佐藤[東京](以上事務局)

配布資料:

資料 1: 会報編集サイクル(編集小委員会)

資料 2: 月次会計報告(11 月 12 日版)(事務局)

資料 3: 会報印刷発送代金(事務局・財政)

資料 4: 収支状況の報告(事務局・財政)

資料 5: 会費納入状況(事務局・財政)

資料 6: 出版部からの報告(事務局・出版部)

資料 7: 連絡先変更のお知らせ(事務局・出版部)

資料 8: 第 46 回全国大会販売実績(事務局・出版部)

資料 9: 第 46 回全国大会決算案(全国大会小委員会)

資料 10: 第 47 回全国大会概要(全国大会小委員会)

資料 11: 支部から地域グループへの移行手続き(研究グループ WG)

資料 12: 研究グループの運用(研究グループ WG)

資料 13: 新体制移行に伴う会費徴収方法の変更について(会費徴収 WG)

添付資料: 2015/2016 年度支部活動報告まとめ(2015/2016 年度初～2015/11/27 まで)

添付資料別紙 1: 大阪支部報 No.223

添付資料別紙 2: 広島支部 総会報告

議事要旨:

冒頭, 自己紹介を行った。

議事に先立ち, 常任委員会から, 遠隔地から出席の全国委員には, 宿泊費を支給する提案がなされ, 以下の意見があった。

- 福岡支部では, 1 万円予算計上している。
- 北海道支部では, 予算計上していない。
- 広島支部では, 予算計上していない。

「遠隔地」の定義として, 北海道・広島・福岡の各支部が該当するものとし, 当該各支部に, 宿泊費として 1 回あたり 5,000 円を助成することとなった。

1. 報告事項

1.1. 小委員会・事務局

1.1.1. 研究小委員会

① 関東五支部合同例会

1 月 30 日(土)に開催する。

詳細は 12 月に打ち合わせをする予定である。

現時点で決定している事項は以下のとおりである。

テーマ: 松竹大谷図書館の取り組み(クラウドファンディングサイト READYFOR による図書館の運営資金募集プロジェクトなど)

講師: 武藤祥子氏(松竹大谷図書館)

会場: 筑波大学東京キャンパス

② 近畿三支部合同例会

来年1月24日(土)か31日(土)のどちらかの開催を予定している。

大阪支部が主担当である。

現時点で決定している事項は以下のとおりである。

テーマ: MOOCS 大学教育と大学図書館との関わり

講師: 東京大学の船守美穂先生, 三重大大学の長澤先生に打診中である。

会場: 大阪の生涯学習センター

1.1.2. 編集小委員会

① 会報『大学の図書館』編集進捗状況

- 10月号(大会フラッシュ号/担当:池田)

11月13日に発送済である。

- 11月号(担当:江沢)

巻頭言は江沢が担当する。

特集「大学図書館の企画展示」とし, 東北学院大学, 筑波大学, 一橋大学の事例を掲載する予定である。

その他, ワンディセミナー参加報告, 全国大会(広島)のお知らせを掲載する。

- 12月号(全国大会記録号/担当:池田)

現在, 初稿を確認中である。

- 1月号(担当:鈴木)

巻頭言は呑海が担当する。

特集「大図研, 北から南から」とし, 全国委員を通じて各支部に執筆を依頼している。

- 2月号(担当:和知)

特集「震災アーカイブの現在」または「震災の記録のいま」の予定である

② 2016年発行の会報の編集体制

支部担当分は, 北海道支部1, 京都支部1, 兵庫支部1, 大阪支部1, 交渉中1である。

常任担当部として, 鈴木3, 池田1, 北川1, 和知2の予定である。

連絡先のメールアドレス等の情報をお願いすることがあるが, ご協力願いたい。

個人で編集作業に参加したいという方がおられればご協力をお願いしたい。特集が組めるので, 自分の興味のあることを掲載することもできる。周りの方々にも声かけをしてほしい。

③ 会報への議案等資料掲載の変更

これまでは, 大会に関する情報を6月号(大会議案書号)に一括して掲載し, 第3号議案は当日配布としていた。これらを下記のように変更する。

- 5月号(通常号): 全国大会スケジュールを掲載する。

- 6月号(議案書号): 第1号議案, 全国大会情報を掲載する。

- 7月号(通常号): 第2・3号議案を別刷りとし, 7月号に同送する。

別刷りは850部印刷し, これに要する費用は約37,000円の見積もりが出ている。

従前, 第2号議案を年3回, 掲載・配布している。1回目は会報6月号で, 年度途中(4月末)の仮決算等, 2回目は大会当日配布資料で, 会計監査結果を反映した情報, 3回目は会報12月号で, 会員総会において承認された確定情報をそれぞれ掲載している。会計資料は, 監査後のものでなければ意味がなく, 会計監査後の資料を掲載するため, 会誌の刊行スケジュールと分離した上で別刷りすることによって, 適正化・省力化することが主目的である。

- 期末前に次年度の体制を決めるのは難しい。
→その場合、資料は空白とし、大会当日に発表する形でよい。
- 従前、7月に支部大会を実施している。支部の予算決算と、全国大会のことを話題としている。7月号を早めに刊行していただくことは可能か。
→申し訳ないが対応しかねる。6月号に全部の情報を掲載することも考えたが、監査を考慮して原案とした。
- 次回3月の全国委員会でも会計報告はあるのか。それがあれば支部として目安は立てられる。
→配布する予定である。

④ 会報編集サイクル

【資料1】に基づき説明があった。

編集担当者がどの時点で何をすればよいか必ずしも明確になっていなかったため、スケジュール表を作成することによって、明確化した。

⑤ 『大学図書館問題研究会誌』投稿規程改訂・査読体制の見直し

以下の理由から、研究会誌の投稿規程の改訂が必要と認識している。

編集小委員会および常任委員会において準備を進める。

- ミッション・ステートメントに基づいて、会誌発行の目的・掲載記事を設定する必要がある。
- 現行の規程に記載のある「『大学図書館問題研究会誌』編集委員会」は存在しないので、実質化する。
- 査読に関して明記する。査読について現在は、全国委員(編集小委員会の委員を除く)1名に依頼しているが、今後、再検討する。
- 「大学図書館問題研究会出版物掲載原稿の著作権規程」への準拠について記載する。

⑥ 『大学図書館問題研究会誌』編集進捗状況

次号(41号)について、原稿依頼は未着手である。

⑦ 発行物の検討(今後の課題)

隔月刊、会報と会誌のコンテンツの見直し、デジタル化などを常任委員会にて検討している。

ご意見があればいただきたい。体制を変える場合は時間もかかるので、ご協力お願いしたい。

1.1.3. 広報小委員会

① Web

常任体制、連絡先を更新した。

議事要旨は2014/2015年度分まで公開済みである。

各支部の活動予定等は、活動日誌(googleカレンダー)にて適宜提供している。

出版物の情報提供として、新刊情報、会報の目次情報等を刊行の都度発信・更新している。

② SNS

Twitter: 投稿 781→854(73件投稿), フォロワー598→640(+42), リツイート 96

Facebook: いいね 209→236(+37), 投稿 71件(見た人 15,469, いいね! 808)

③ 支部だより

2015/2016年度より、野村から加藤に担当を変更した。

毎月、前月 15 日から当月 14 日の活動状況を各支部から情報提供を受け、全国委員 ML と会員 ML に投稿している。

Web に「2015 年 7 月 15 日-8 月 14 日」分までを掲載した。

1.1.4. 組織小委員会

① 会員数

482 名 (7 月 19 日現在, 472 名)

② 入退会者数(7 月 20 日～11 月 18 日)

- 入会(13 名)
- 退会(3 名)
- 入会希望(希望支部不明)(2 名)

③ ML 登録アドレス数

372

④ 組織名簿と会費台帳の統合

作業は完了した。

1.1.5. 全国大会小委員会

第 46 回全国大会(札幌大会)を以下のとおり開催した。

- 2015 年 8 月 22 日～2015 年 8 月 24 日 北海道大学札幌キャンパス
- 参加者数:94 名(全日参加 55 名, 1 日参加 16 名, 講師等 23 名)
- 協賛:7 社(20,000 円 5 社, 10,000 円 2 社)

1.1.6. 事務局

① 財政

【資料 2】に基づき、月次会計報告があった。

【資料 3】に基づき、会報印刷発送代金の報告があった。

【資料 4】に基づき、収支状況の報告があった。

【資料 5】に基づき、会費納入状況の報告があった。

② 出版部

出版部を、文教大学越谷図書館から和光大学図書・情報館へ移行した。

【資料 6】に基づき、出版部現況の報告があった。

【資料 7】に基づき、連絡先変更のお知らせを会誌・会報購読者に配布した。

【資料 8】に基づき、第 46 回全国大会(札幌大会)の販売実績の報告があった。

③ 連絡先の変更・調整

事務局住所を、前事務局長住所より、文教大学越谷図書館へ変更した。

出版部も含めて、大図研 Web ページは未修正であるが、近々修正する予定である。

大図研の窓口メールアドレスを見直し、以下のように設定した。

- 総合窓口メールアドレス
jimur@を用いてきたが、spam 等が増加してきたので、新たに dtk_office@を作成し、jimur@を廃止した。
- 出版物の購入など出版部のメールアドレス
shuppan@

- 会員の異動等, 組織関係のメールアドレス
soshiki@

④ 会報送付用封筒の変更

角3封筒(クラフト85g/m²クイックつき スミ1色 片面印刷9,000枚 約13万円)から, 透明封筒(OPP袋 9,000枚 約3万円)への変更を検討中である。

発送代行業者に確認中であり, 確認取れ次第移行する。

⑤ 会報発送方法の検討

2016年1月までに案を作成予定である。

⑥ 各種日程

今期の常任委員会は, 原則的に毎月第4日曜日に開催する。次回は12月23日(水祝)に開催する。支部として議題を上げてほしいものがあつたら考慮してほしい。

今期の会計監査は, 2016年7月24日(日)に開催する。

1.1.7. その他

以下の案件について検討を要する事項として報告があつた。

① 会計監査人

1名未決定であるため, 推薦を求めたが, 特に意見がなかったため, 常任委員会預かりとなった。

② 大図研の呼称

短縮名称の表記として, 「ダイトケン」と活動されているところがまみられる。

カタカタが別組織と認識されているという報告もある。ブランディングという観点から, 検討しておくべきという意見があつた。支部活動で用いるのは問題ないであろう。

また, 大学図書館「問題」研究会の, 「問題」をどう扱うかについても今後考えていく必要がある。理由として, 特定の政策等に強い関連がある団体であると錯誤される可能性があり, 若い人が入りづらい現状があるためである。

③ 五十周年記念事業

第50回全国大会に向け, 動き出したいと考えている。

④ 海外図書館ツアー

転換期でもあり, 大図研で海外ツアーを企画してみたい。

鈴木, 江沢が担当者であり, 現在の案では, イギリスの大学図書館ツアーを考えている。

「こんな企画をしてみたい」, あるいは企画したいということがあればお願いしたい。

1.2. 支部活動

【添付資料】に基づき, 各支部から報告があつた。

会報の見直しにより, 会報のスペースが空いているので, 各支部でイベントがあれば掲載するようにしてほしい。

資料未記載の特記事項は以下のとおりである。

① 北海道支部

12月に会合を開く予定である。

② 千葉支部

年 2-3 回, 例会を開催している。会誌を配布している。

③ 東京支部

関東五支部例会を 1 月に開催する。

④ 愛知支部

講演の記録は, 会誌に提供可能である。

⑤ 広島支部

活動計画中, 「中小規模大学の電子ブックの活用について」は, 12 月 26 日(土)開催に日程が確定した。

【資料 10】に基づき, 広島大会の概要の説明があった。

⑥ 福岡支部

会計担当者が交代した。

支部報は冊子体を中止した。

11 月に忘年会を開催した。

2-3 月に例会を実施する予定である。

2. 審議事項

2.1. 小委員会

2.1.1. 研究小委員会

① 大図研オープンカレッジの運営体制

今期から, 関東以外で開催したいと考えている。

広報等も含めて, 全面的に引き受けて, オープンカレッジという看板を背負ってやってほしい。

一般財政からの予算措置はあるが, できれば独立採算を踏まえて企画してほしい。

引き受けてくれる支部・地域があれば手を上げてほしい。

→京都支部で引き受けたい。ワンディセミナーでのノウハウが生かせると思う。

→大阪支部でも今後の開催を検討したい。

今期は京都, 次回は大阪で検討願うということで了承された。

② 新規の運営サポート会員募集広報

詳細は京都支部と調整することとなった。

関西での開催なので, 関西地域向けに文言を出すべきと考えるが, 相談して決定したい。

2.1.2. 全国大会小委員会

① 第 46 回全国大会(札幌大会)決算案等

【資料 9】に基づき説明があった。

1 日参加がもうちょっと伸びるか想定していたが, 伸びなかった。

会場費・機器費が安く抑えられた。

今回, 約 17 万円の黒字が発生した。実行委員会形式では初めての大幅な黒字である。

支部で全国大会を担当していた際は, 打ち上げ費を除いた額を, 支部と一般財政で折半としていた。

常任委員会から, 実行委員会形式であることもあり, 算出根拠はないものの, 約 3 分の 1

に当たる5万円を尽力くださった北海道支部に戻し、残余を一般財政に戻す提案をし、了承された。

次回も実行委員会形式であることから、基準を定めるべきであるという意見もあったが、もう2-3年経験を積んで、基準を策定するかどうかを検討することで了承された。

決算案の確認を行った。

② 第47回全国大会(広島大会)概要

全国大会実行委員長と全国委員長が同一人物であるということは好ましくないが、ほかに担当するものがないため、呑海が兼務する。

副実行委員長は広島支部の辻、常任委員の上村とし、承認を得られたら、もう1名の副実行委員長を加えた三人体制とする予定である。

広島大会では、できるだけ多くのお力をお借りしたい。

→中島、長坂、小村、山口の各氏が立候補した。

去る2015年12月19日に現地で打合せを実施した。

それを踏まえて大会スケジュール案を組み立てた。

今年度との変更点は以下のとおり。

- 初日の記念講演を実施しない。
理由は、初日はスケジュールが厳しいからである。
- 分科会の開催時間を9:00から9:30に変更した。
受付時間ねん出のためである。このため、お昼が2時間から1時間半になる。
- 3日目のシンポジウムは、「オープン」を外した。
無料で参加できるような印象を与えるためである。
シンポジウムで何か腹案はあるか。
→今のところない。
- 自主企画を早めに決定し、部屋を確保したいことと、前夜祭も盛り込んだ。
今の段階ではこれでよいという意見が出て、承認された。

③ 全国大会の今後(課題)

今回結論を出す話題ではないが、問題提起したい。

全国大会は、4年前から実行委員会形式で開催している。常任委員会の下に設置する形で進めている。従前の支部で実施することが難しくなっているため、実行委員会形式で開催しているが、このままでは持続することが難しい。実行委員を引き受ける人が少なく、同じ人が毎年、担当せざるをえない状態が続いているからである。

全国大会を廃止する、隔年開催にする、2日間の開催に縮小する等の提案があったが、いずれも決定には至らなかった。

また、次のような意見もあった。

- 会員総会の立ち位置を考え直す必要があるのではないか。
- 会員総会とは別のところで会員交流の観点から開催すべきか。横の繋がりは大きい。
- 会員総会は年1回、イベントは隔年という手もある。
- 3日から2日にするのは個人的に賛成だが、オープンキャンパスが開催されるので、公共図書館の方々は月曜日に参加していた事実がある。
- 隔年で2日間開催とする。
- 2日間開催とすると、研究発表と分科会だけになる。そうすると、午後の分科会に出ないで帰る方も出てくる。3日間開催だと、1日目の午前、3日目の午後は移動時間としての考えもある。
- 個人的には3日を死守したいと考えている。何とかして3日間を守ろうと思っているの

であれば、手をさしのべてほしいと思っている。どうしても続けたいのであれば、続けた
いし尽力する。縮小していくと、どんどん縮小していく危惧は持っている。

- 会則は実際に合わせて変えればよいだろう。
- 人手と機材の手当てが負担か。昨今は当日配付資料も極力少なくするようにしている。
- いったんなタスクがあるのかがはっきり分かっているのであれば、全国大会の運営側としての参加も可能である。

2.2. ワーキング・グループ

2.2.1. 研究グループ WG

① 支部から地域グループへの移行

【資料 11】に基づき説明があった。

手続きについて確認し、以下のスケジュールが了承された。

- 全国委員会(本日)、支部制から地域グループ制に移行のための手続きを審議する。
- 2016年2月末までに、各支部の方針を決定する。
- 2016年6月の議案書号に新体制について掲載する。

その上で各支部からの回答を得た上で、大会議案書号に新体制について掲載することとなった。

移行のための方針決定について、以下のやり取りがあった。

- 地域グループ名が分かるようにすればどのようにしてもよいか。
→「地域グループ」を固定呼称とする。
- 地域グループ名は、「地域グループ」という名称をどこかにつけるといふことでよいか。
→よい。
- グループ活動費は支部費と同じと考えればよいか。
→よい。
- 幽霊会員の問題、淘汰する意図があってもよいのではないか。
→運用の仕方は支部にお任せする。
- 世話人とは何か。
→グループ制の連絡先は1つにしてほしい旨を書いた。世話人を置く必要があるのではない。
- 2月までに資料を提出し、それから全国委員に諮るという意味として捉えてよいか。
→よい。
- 資料提出後は公開されるのか。
→大会議案書号と大図研 web で公開される。会員が所属する地域グループを選択しやすいう、それぞれの地域グループの紹介が必要である。
- 会費徴収で、支部会員でないけれどもオブザーバ(賛助会員)という方々はどうか。→大図研では賛助会員制を取っていないので、各地域グループで運用を考えてほしい。ただし、一括会費徴収の対象外となる。

常任委員会としては、支部を地域グループへ移行する方向で検討していただきたいが、やむなく解散を選択する場合は、あらかじめ連絡してほしい。

② 研究グループの運用

【資料 12】に基づき説明があった。

当面、提案の方針を進めて、不具合があれば2年後に再検討することが承認された。

運用について、以下のやり取りがあった。

- 申請時の人数は承知しているが、後から参加が増えたらどうするのか。
→あくまでも申請時の人数を基準とする。

- 会費延滞者はどうするのか。
→会費徴収 WG で延滞者について議論する。
- 似たような研究グループの申請ができた場合の調整はどうするのか。
→今のところ、形式的な確認だけなので、内容面での調整はしない予定である。
- 地域グループのメンバーがそのまま研究グループのメンバーであってもよいのか。
→よい。ただし、良識の範囲とする。

③ 体制移行調整 ML の運用

グループ体制移行検討用メーリングリスト(dtk-grp@)を設定する。

メンバーは、全国委員、事務局、支部長、支部からの推薦者(各支部 1 名まで)とする。

支部から連絡がない 2 支部については、全国委員を登録している。

ML の設定について、以下のやり取りがあった。

- 細々としたことを聞ける ML と思えばよいか。
→よい。動き出すと細かいことで照会が入るだろう。将来的には発展的解消になると想定している。

2.2.2. 会費徴収 WG

【資料 13】に基づき説明があった。

資料の内容について、以下の意見があった。

- 一括徴収は来年度から開始され、遡らない。それまでは各支部で請求する必要がある。
- 7 月以降の徴収分は新体制になるので、支部還元金の 500 円を差し引かず、会費 5,000 円をそのまま納入してほしい。会員の立場からすると、7 月以降になると、今年度分およびそれ以前の年度分と、来年度分の会費請求を受けることになる。どうしても支部で徴収できない場合は常任委員会に相談してほしい。
- 請求書は信書になるので、郵便で送る。会報に同送する方法について検討中である。
- 支部の予算構築についてどうするかを考えている。

また、資料の内容について、以下のやり取りがあった。

- 会費未納の 3 年とは、今後 3 年なのか、今現在のことなのか。
→将来のことである。今から 3 年間の意味である。
- 活動費が振り込まれないと困る支部はあるか。
→ない。
- 退会者が再度、入会を希望する場合の扱いはどうなるのか。
→退会時で抹消となり、新規会員扱いになる。15 年前の京都支部でも同様のことがあった。それを全国にも展開したい。どうしても無理な場合はご相談させてほしい。
- 資料の項番 2③で、未納分は支部還元金から減額されるということか。
→支部還元金制度そのものがなくなるので、減額されるといういみではない。
- 現在、事務局から直接会費を請求されているが、未納分の対応はどうなるのか。
→支部で徴収してほしい。
- 【資料 5】「支部別会費納入率」を参考にすればよいか。
→参考にしてみしてほしい。支部と全国の名簿が合わないこともあるので、その場合は問い合わせしてほしい。
- 業務増加の内容を教えてください。何人ぐらい手が上がればよいか。
→現体制は 3 名+WG3 名である。
- 会費を徴収した際、領収書発行を求める人がいるが、それも本部扱いとなるか。
→そのとおりである。

2.2.3. 会員組織 WG

入会申込み方法を整理中であり、現況と今後の予定が示された。

会報は毎月送っているのので、不達の場合、1ヶ月後くらいに分かる。

会費徴収は年2回となるので、1本化したい。会費徴収体制の変更により、個別発送化をすすめる。

会費徴収 WG とも相談し、進めていくことが承認された。

また、発送先について、以下のやり取りがあった。

- 大阪支部と兵庫支部にまたがっている会員がいる。阪大にまとめて送付が提案されたが本人に任せた。2つの宛先で別々に、という希望はあるかもしれない。統合する努力はする。
- 個々宛てに送る場合、職場か自宅かは選択してよいのか。
→よい。

2.2.4. 出版物管理 WG

① 出版物管理の課題

今年度より、出版部は文教大学から和光大学に移行した。

しかし、現体制が継続できるのは数年であり(長くて5年程度か)、出版部に係る事務をどのように維持していくかが課題である。

予算が許せば外注もあるが、難しい。

在庫を抱えているので、引き受けてくれるところは少ない。

出版部組織そのものを考える必要があるが、出版物の管理そのものは続けなければならない。

かつて、ご厚意で広いスペースに出版物を置かせていただいていた時期もあるが、もはやそのようなところはない。

出版部を、在庫管理・請求・帳簿管理など3つに分けることも考えてはいる。

② 会報の課題

会報は印刷業者が愛知にあり、印刷した後、運営サポート会員の元に一回回送し、そこで封入・発送作業を実施している。これも別の方法を検討する必要がある。

基本的に外部委託とし、印刷から発送までの作業委託費の低い業者を探す予定である。選択肢はいくつかあるが、予算が上がる可能性がある。ボランティアなどところでこれ以上の負担増は難しい。いいアイデアがあれば教えてほしい。

以上を踏まえ、以下の意見があった。

- 会費を上げるのはなるべく避けた方がよい。
- 前回の会費値上げはいつなのか。
→かなり昔。20年は上げていないことになる。1,000円上げるのに会員全員投票で決めた。
- 学生会員など種別を増やすなどの方策をとるのはどうか。学部生や院生を受け入れていくことは、専門性の勉強のためにもよいと考える。ただし、薄利になるかもしれない。
- グループ制になってからグループの活動費を見直す必要があるか考える。今結論を出すのは得策ではないだろう。
- 支部費は支部によって、0円から2000円と幅がある。
- レンタルボックスを借りることも検討する必要があるだろう。
- 会報のバックナンバーは重要なのか。電子化できないのか。
→バックナンバーを販売している。

- 販売物の価値として、バックナンバーの存在はあるのか。
→個人向けにはあると思われる。

2.3. その他

次回は例年どおり2月か3月に開催する。

議題は、全国大会の内容である。分科会は8つとする。

従前の内容を踏襲したいが、新しい分科会等の案があれば、事前に連絡してほしい。

以上